

インテリアデザインセミナー 『現代の建築と和紙』



平成27年9月30日(水) 高岡駅前のウイングウイング高岡にてインテリアデザインセミナー『現代の建築と和紙』が開催されました。参加者は28名でした。

講師は、蛭谷和紙作家の川原邦隆氏。後継者不足から、幻といわれた技術を伝承し古くから伝わる製法と道具で和紙製作を行っておられ、原材料であるこうぞの栽培から仕込み・紙すきまで、全てをご自身で手掛けておられます。

まず参加者に「和紙って何ですか？最近で和紙に触ったのはいつですか？」という問いから始まりました。和紙の原料となる樹木は主に、コウゾ・ミツマタ・ガンピの三種類で、実はおれもミツマタからつくられる和紙でということでも身近な存在なのです。

実は身近な和紙ですが、日本の住宅においては和室が無くなる等の理由から使用される機会が減少し、昔は各集落に存在したという和紙を生業とする方々は激減しました。そのような中で和紙を生業としていく為には、価格競争には巻き込まれたくない。そこで川原氏は単品売りは行わず、作品として和紙を売り込む為に透けるほどの薄い物や、透かし和紙、立山杉の色付和紙などを製作し、和紙の使い方を提案しておられ県民会館ホールや北陸新幹線 黒部宇奈月温泉駅の合わせガラスや、最近オープンした富山市ガラス美術館 TOYAMA キラリ等、様々な建物に川原さんの和紙が採用されています。



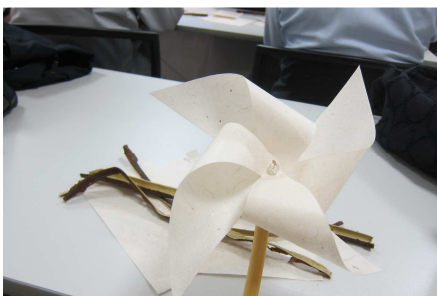
合わせガラスに加工された透かし和紙や、柿渋で着色した和紙など、様々な和紙のサンプルを紹介。和紙づくりの過程も、コウゾや繋ぎとなるトロアオイの仕込みから紙漉きまでを実演しながら説明していただきました。紙漉きに使うスダレは目が細かく非常に高価で、日本で製作している所が少なくなっているそうで道具などからも継承が難しいと感じました。

セミナー参加者の様子

ワークショップでは和紙の材料である“こうぞ”を軸にして、風車を製作しました。みなさん懐かしむように完成品を回しながら、「孫に持って行ってあげんなん」等ニコニコの笑顔になっていました。

参加人数

28名



ワークショップ

風車を製作。和紙の程よい張りが風を受けてクルクルと回ってくれます。



和紙づくりを実演

こうぞを使った和紙作りの過程を、原料の仕込みから実演していただきました。



作品の数々

透かし入りの和紙や合わせガラス、素材の色を生かした色付和紙等を紹介

和紙の可能性

川原さんは常に攻め続け、今までの古典的なイメージを覆すような提案をしていきたいと言っておられたのが印象的でした。私たちがそれに負けない使い方を提案したい！と思いました。